

連盟会報

発行日：2014年(平成26年)10月20日

◆第36号◆(P-1)

発行：NPO法人 日本抜刀道連盟
企画・構成・編集：広報部
…事務局…

〒212-0012 川崎市幸区中幸町 1-17
☎：044-555-8660 FAX：044-223-7544

第23回 日本抜刀道連盟全国大会 鹿島神武殿で盛大に開催

：NHK TV 海外向け放映 撮影取材入る：

連盟創設以来二十三年を迎えた本連盟の『第二十三回日本抜刀道連盟全国大会』が十月五日(日曜)由緒ある剣の聖地、鹿島の本部道場「鹿島神武殿」に於いて盛大に開催された。
大会は、予定通り九時に開会。開会式に入る前に、無念にも本年ご逝去された盟友、森本武久 連盟本部参与・樋口功 高知支部興武館々長・富田憲介 埼玉尚武館支部長の、在りし日のお姿を偲び大会参加者一同が黙祷を捧げご冥福を祈った。

開会式は、大会実行委員長 中世古勝司(連盟副会長)の力強い開会宣言で幕を開けた。
続いて国旗に拝礼…。静寂なる大会会場の中で一同は君が代斉唱。

続いて、この度の安倍内閣の国政で、内閣府兼復興副大臣として日夜を問わず孤軍奮闘活躍し、明日(六日)の国会参議院予算委員会での質問に立つと言うご多忙の中ご臨席を戴いた、本連盟名誉会長 岡田 広 副大臣からは、『刀は武士の魂である』と言われるが、武士の魂とは武士道精神のことです。また、武士道は、知識と行動の一致、つまり『知行合一』の精神の実践であります。
私達が学ぶ抜刀道にも高い精神性が求められ、この武士道精神と鹿島神武殿館則五則を、常に年頭に置き、日々修練に励む事が高い精神性に繋がり抜刀道の神髄であると、貴重なお言葉を戴いた。

また、本連盟最高顧問 中村鶴治 鹿島神武殿理事長は、抜刀道も各団体が友好関係を保ちつつ交流を図る関係が続いている。
抜刀道は「剣道・居合道」の原点であり、我が国が世界に誇る精神文化の粋とも言えるべき武道の源流をなすものである。
我々は常に、目先の「技や勝負」だけにとらわれず、技を支える精神こそが大切であるとの認識の基に、技術の向上を競い合う事は抜刀道の輝かしい未来を予感するものであります。
我が国が世界に誇る精神文化の粋とも呼べる抜刀道を後世に伝える残すため、我々は努力研鑽を重ねていかなければならない。

…開会式…

武道がスポーツに流れたり、形式的だけにこだわる現在、抜刀道も『斬るだけの曲斬り』に走れば抜刀道も駄目になる。抜刀道の神髄は『身を守り・家を守り・国を守る』ことが終局目的であると信ずるとの尊いご挨拶を戴いた。

大会会長 大江正男 連盟会長は、抜刀道団結を提唱された中倉清先生・中村泰三郎先生の意志を忘れることなく各連盟共に交友を持ち、大会を進めて行きたい。
また、昨年に続き文部科学大臣より表彰状を戴くようになり、優秀な成績をおさめた選手に授与される。
抜刀道の心得は、日頃申し上げている通り、鍛練するものであり、上達の妨げは『慢心と我執』である。
斬れても角度が良くても、力まかせの斬り方では、斬った時の音も違い、刀はねじれたり、曲がったりする。
試斬用ダンボールの「斬り口」を見たと斬った下部分が押さえつけられた状態になっていると角度は良くても刃筋が通っていない事が良く解る。
この事を認識し日頃の修練に励むようにと挨拶があった。



↑ 大江正男 大会会長 挨拶



↑ 名誉会長
※ 岡田 広先生 挨拶



…開会式…

続いて、審判長注意があり、中島正夫 大会審判長は台風十八号の接近に伴い、ここ茨城県鹿島町の地は、どんよりした秋空だが、本日全国各地から集った、選手諸兄の胸中は「快剣雲を払う」如く、この様に爽やかな気持ちで元気に再会出来たこと、何と素晴らしい事か互いに喜びあいたい。

本大会は、選手諸兄が日頃修練した成果と自分の姿を発表する年一回の貴重な場であり奮闘を期待する。

競技は「開始線に始まり…開始線」に戻るまでが…、審判判定の基準となるので「気」を抜かずに、十分に《心技》を発揮されることを期待する…。

なお、競技会場は非常に狭隘化している。競技中の絶対安全の確保は、抜刀道《存続の生命線》である…。

この認識の基に、大会会場での愛刀の目釘の確認と手入れを含め刀を振るときは、安全委員の指示に従い指定の場所で行う様に指示徹底がなされた…。

続いて、第二十二回・団体戦優勝チームの「優勝旗返還」が、高知支部からなされた。

『選手宣誓』は、同じく高知支部、今村文彦七段が力強い宣誓を行った。

露払い、大江正男大会会長の立会いで、大塚光男範士八段が、厳粛に静まりかえった会場で行った。

連盟制定組太刀は、中島正夫 大会審判長の立ち会い解説により、打太刀・菅野茂教士八段、仕太刀・岡本光正錬士六段が凛々しい中に気迫ある演武を行った。開会式が終了し、競技開始の太鼓の合図で…、各会場は、審判団の先生方を中心に試合が展開され、開会式で静寂した会場の空気を破り、選手諸兄の《熱気と闘魂》が、ここ鹿島の地に走った…。

なお大会総合同会は、中村照彦香川支部長が行った。

⇐ ◆開会宣言：中世古勝司 実行委員長
◆審判長注意：中島正夫 大会審判長 ⇐
↓ ◆優勝旗返還：今村文彦 高知支部



↑ ◆露払い：大塚光男 範士八段
立合：大江正男 大会会長
※各競技会場では、審判主任を中心に打ち合わせが行われる。第二会場の松井弘 審判主任 ↓



⇐ ◆連盟制定《組太刀》演武
立合・解説：中島正夫 大会審判長

…打太刀…
菅野 茂 教士八段

…仕太刀…
岡本 光正 錬士六段



◆武道の聖地…鹿島にはしる選手の気迫◆

競技熱戦を通じ、参加選手の練度の向上が目立ち各支部長・公認指導員を中心とした修練指導の成果を感じ取った。また大会競技は、審判主任を中心とした審判団の真剣なるメリハリある審判判定の姿に、選手も刺激を受け、気迫ある素晴らしい競技展開となった。なお、大会成績は下記の通り…。

第23回

全国大会◆団体戦◆
：中倉旗：
讃岐抜刀道(A)に栄冠

試合種目		優勝	準優勝	3位	
制定 (形)	初段以下	北村 淑美 (忠勇会)	宮本 光三 (英信館)	岡本秀之澤 (東京英信)	小国 英智 (英心会)
	2・3段	辻井 香里 (忠勇会)	番川 仁 (川崎)	高橋 忍 (仙台)	城和 宏賢 (尚武館)
	4・5段	鎌久原朝彰 (沖 興)	小林 克巳 (尚武館)	井上 康司 (心武会)	今村 文彦 (高 知)
制定 (実技)	初段以下	植山 孝明 (武蔵会)	関田 安明 (忠勇会)	長野 宏治 (土成会)	斎藤 亨一 (鎌 倉)
	2・3段	三宅 康司 (讃 岐)	下河邇 朗 (英心会)	伏見 由希 (讃 岐)	本多 浩 (鎌 倉)
	4・5段 (中村杯)	柴田 輝久 (千葉)	加地 正司 (千葉)	ベンジャミンジョウダン (英心会)	堀川 隆 (高 知)

団体戦 (中倉旗)	支部名	讃岐支部(A)	高知支部(B)	大阪 支部	鎌倉支部(B)
	先鋒	伏見 由希	宮田 靖彦	廣川 憲司	斎藤 亮一
中堅	古田 忍	徳 廣 真 穂	日 高 健 治	井上 直樹	
大将	三宅 康司	松田 一夫	長 瀬 卓 治	小林 明夫	



↑ 堂々たる入賞者の雄姿
凛々しい審判の判定 ↓

優勝の栄冠を手にした 讃岐抜刀道支部の精鋭選手の雄姿

↑ 【写真前列(左)から】
 (先鋒)伏見 由希 選手・(中堅)古田 忍 選手・(大将)三宅 康司 選手
 【後列(右)から】
 平岡 茂 範 讃岐抜刀道会長
 大江 正 男 大会 会 長
 中島 正 夫 大会 審 判 長
 藤 本 佳 嗣 讃岐抜刀副会長

【特集】各県各支部で活躍する“精鋭選手の横顔”

個人戦 制定刀法(形)

(精鋭選手横顔は…左から優勝・準優勝・3位)



◆初段 優勝 北村 真美 (忠勇会)
準優勝 宮本 光三 (英信館)
3位 小国 英智 (英心会)
3位 岡本秀之澤 (東京英信)

◆2段 優勝 辻井 香里 (忠勇会)
準優勝 富川 仁 (川崎支部)
3位 城和 宏貴 (尚武館)
3位 高橋 忍 (仙台支部)

◆4段 優勝 鎌久原朝彰 (沖縄支部)
準優勝 小林 克巳 (尚武館)
3位 井上 康司 (心武会)
3位 今村 文彦 (高知支部)

個人戦 制定刀法(実技)



◆初段 優勝 植山 孝明 (武蔵会)
準優勝 関田 安明 (忠勇会)
3位 長野 忠治 (士成会)
3位 斎藤 亨一 (鎌倉支部)

◆2段 優勝 三宅 康司 (讃岐支部)
準優勝 下河邊 朗 (英心会)
3位 伏見 由希 (讃岐支部)
3位 本多 浩 (鎌倉支部)

◆4段 優勝 柴田 綿久 (千葉支部)
準優勝 加地 正司 (千葉支部)
3位 ベンジャミン (英心会)
3位 細川 隆 (高知支部)



※ 制定刀法(実技)団体戦で見事栄冠を勝ち得た“讃岐流刀道支部”
…堂々と《中倉旗》を授与する、先鋒・伏見由希選手…

今回の大会は、選手諸兄の日頃の修練の成果・練度の向上が認められ各支部長を中心とした指導の成果が認められる。また競技は、審判の先生方の真剣なる「メリハリある審判判定」の姿に選手諸兄の気迫ある「メリハリある審判判定」の姿に選手諸兄の気迫ある競技の素晴らしい展開となった。

この全国大会は、年一度の練度の発表の場であると同時に「自己を見つめ啓発を図る」貴重な場でもあり人の所作を見て何かを感じ取り、日頃の自分の稽古に生じてほしい。そして、また来年もお互いに元気な姿でお会いしようではありませんか。

本日は、早朝から会場設営をして下さった準備委員の方々、各コート会場進行係の地元のお手伝いの方々、心から厚くお礼を申し上げます。

また最後まで、私達の為に真剣に審判をして下さった審判団の先生方に対し、皆さん方と共に心からの大きな拍手を贈り、私達の感謝の気持ちを、お伝えしようではありませんか。

審判団の先生方、有り難うございました。

…◆閉会式◆…

感謝状贈られる…連盟組織活動に貢献

※ 連盟全国大会・審査会・本部&地方の各種講習会等々に、遠路のなか撮影機材を肩に背負い物静かに“連盟活動・選手姿”を撮り続け…選手諸兄の思い出と夢を届け続ける等々“連盟組織活動への貢献”に対し、連盟専属写真家：保泉正夫氏に感謝状が贈られた…。



◆閉会の言葉 大会会長 大江 正男
いよいよ台風十八号が関東に近付き小雨風雨の肌寒い中…、早朝よりの大会お疲れ様でした。選手皆さんの日頃錬磨のお陰で、この大会が無事故で終わることが出来ました…。

早朝から会場設営準備、進行・記録係の皆さん、そして審判員・役員各位の手際良さで滞りなく終わりました。

また来賓の方々、最後まで有り難うございました。雨と風で足元が悪いので皆さん気を付けてお帰り下さい。

本日は有り難うございました。

◆審判長講評 大会審判長 中島 正夫

“各県各支部の選手を心温かく迎え…大会を支える陰の人々”

本連盟も創設以来23回目の全国大会を迎え、その“実績と足跡”を残している。私達連盟役員および地元支部は、各県支部の選手諸兄が気持ちよくこの全国大会に参加し、日頃の修練成果を十分に発揮出来るよう、心温かく迎える環境を整えている。

本部広報部は、第22回全国大会で“会場を設営する準備委員”にスポットをあて《会報31号》でもご紹介申し上げたが、第23回大会の今回も同様に早朝まだ外が暗い内に、菅野茂大会準備総責任者(本部事務局長)を初めとするスタッフ以下大会準備委員は、大会会場へと集まり設営作業を完了させ全国から集う選手を待つ…。

◆大会の安全を確保する“刀剣検査”◆

↓ (右)野村寛一 秩父支部長・(中央)佐藤洋一 山形支部師範

また、大会が終了し選手が帰路の準備に入っても、準備委員は、大会終了後の《会場撤去》の為に、額に汗をかきながら“孤軍奮闘”し撤去に走り回っており“ご苦労様!”と…、声をかけるが頭が下がる…。



◆ 毎年“巻ワラ作り”を行い大会を陰から支え、連盟組織活動に貢献する“地元支部”がある。

広報部は、今回その第一戦で活躍する笠間洗心館支部長/太田丈夫 剣誠会支部長/藤田久男 教士にインタビューを試みた。

今回は、高段者審査用として『巻葉100本』と大会用『巻葉500本』を“3か月前の7月中旬”から準備したとの事である。

そして、600本の巻ワラを“大会2週間前”の9月21日。

◆ 各競技会場で大進行の“選手呼び出し・確認・記録”で活躍する

↓ 地元ご父兄と、神武殿道場で剣道を学ぶ青年達で構成する“大会進行委員”の皆さん…

鹿島神武殿道場にて、太田丈夫 洗心館支部長・同 浦井一彦選手・森山進 水戸支部長・藤田久男 剣誠会支部長が、早朝6時から午後13時までかかって“水桶5箱の組立作業”を行い、畳み巻葉600本を浸け込んだとのことであつた…。そして大量の巻ワラなので“3日~4日に1回程”の水桶の水の交換を行い、悪臭を無くしつつ選手が斬りやすいようにした。今年も大会前日に“高段者審査会”があつた為、10月4日(土曜)午前6時に鹿島神武殿に出向き準備作業を開始した。また全国大会が終了後も何回か大会会場の神武殿に出向きケースの解体“真っ黒に変色”した水桶の水抜き、水洗いをしながら、強烈な“臭みをとる”作業の後始末を行うとの事。この様に、我々選手が全国から集い大会競技で“試斬”する“巻ワラ”準備の陰には、巻ワラ浸け込み時の“ヤブ蚊”と“悪臭”との強烈な闘いがある…。◆ 正に《菊と言う大会の大輪を咲かせる陰には》その大会を支える“陰の人達”があつてこそ“大会成功”があり、我々は感謝の気持ちを込めて“有り難う!”と拍手をおくろうではないか…。(連盟本部 広報部)

…菊づくりの陰の人々…
菊みるときは



◆ 後方(右)から:

← 富田晴彦 高知支部・松浦健城 忠勇会支部長

◆ 前列(右)から: 浦井一彦 笠間洗心館支部

太田丈夫 笠間洗心館支部長

森山進 水戸支部長・宮本晴彦 高知支部

◆ 選手が気づかぬ陰で、試斬用巻葉の

《太さ・巻の状態・ゴムの間隔》の

最終点検を行う…藤田久男 剣誠会支部長



◆ (右から)

森山進 水戸支部長

松浦健城 忠勇会支部長

吉村宙也 土成会支部



…◆慢心は最大の敵…

“慢心は人生修行の最大の敵である”
慢心に溺れてしまえばその人の人生修行は
終わりになってしまいます。

「剣は人間形成の道」「剣は心なり」
「敵は我が心にあり」と言われておりますが
我々は武道を通して人生の修行をして居り
ます。常にこの心を忘れないようにして
武道の修行に励んで戴きたいと思って居ります。
私自身も、戒めのため80歳を記念して
詞(うた)をつくりました。ご笑覧下さい…。

◆特別 寄稿◆



副会長
中世古 勝司

一、己の道を 真直ぐに
生きた証(あかし)が 剣の道
慢心押さえ ところを戒(いさ)め
じつと堪(こ)えて
空に向かつて 一振りすれば
心を清め己を正す

二、人の世(よ)の道は一(ひと)つにあらす
千も万(よ)も己(おの)が道
できることから 一つ重ねて
幾年月(とし)も
お天道様(てんさま)のあたる道
常に誠を貫(つら)き通す

歌う八十路越え 歩み続けし 道なれど
行く手は遠き剣の道かな
八十路越え 歩み続けし 道なれど
行く手は遠き剣の道かな



◆広報◆ 編集…後記

▼ 時の流れは実に早い。我が連盟は、創設以来“23年”を迎えた…
今回「会報35号」には、本年の高級者《6段1名・7段2名・8段3名》を輩出した、本連盟の『高級者審査会』と『鹿島神社殿で孤軍奮闘する深牧支配人の横顔』を感謝の気持ちで特集し紹介した。

▼ 会報36号は、本連盟の『第23回の全国大会』を特集し6枚に纏めた。そして今回は特別に本連盟の、次代を継ぐ各県各支部で活躍する“精鋭選手”の横顔と題し『個人戦入賞者』に、スポットをあて“記念写真を添え”その“入賞選手の雄姿”を特集してまとめ紹介した。

▼ 会報類には、紙面配分に制限があり、団体戦優勝者の雄姿は掲載されるが個人戦入賞者の写真紹介は、私の知る限りでは、連盟創設以来23年で初めての紹介であり、選手の励みと記念になれば幸いです。

▼ 若干、私事に触れるが…若い頃に鍛え抜いた“心身”だけに自信があったが…私は突然、胸に強烈な『圧迫感と胃袋周辺』に“激痛”が走り《七転八倒》。実は“危篤状態”で救急専門病院に運ばれた…。1週間食事なしの“抗生物質の点滴”を行い、診断は『急性胆のう炎(重症)・急性胆管炎(重症)』との診断で“面会謝絶”。あと“5時間”遅かったら危なかったとのことであった…。

▼ 原因は《胆のう》に、ゴールドの“金”ではなく、情けないことに“石”が溜まり、その石が流れ落ち胆管を塞ぎ、消化液の胆汁の流れを止めた為、腸の悪玉菌が《胆のう》に上がり、大炎症を起こさせ《胆のう》は、倍以上に膨れ上がり、さらに、肝臓からの《胆管を圧迫》し、重症との事である…。

● お前も、そろそろどうだ!と…私を待ち構えていた《閻魔大王》には、私にはまだまだやるべき事があるのだ!と“キッパリ”と断り《三途の川》の手前で、勝手に“Uターン”して帰ってきた…。

▼ まだ、痛み上がりの身なれど、気力あり“高級者審査・全国大会”に参画し、この様に『会報を体刊』せずに会員に届けられる事が嬉しく、生きがいを感じる…。

● 制定刀法が互角の侍の“真剣勝負を想定”した刀法なら…、私の相手は、本部役員として責務を果たし“会報編集を相手”とみなし、このような緊急事態中でも“発刊”する事が、私の“真剣勝負”であると認識し…、胸中に“男のロマン”を抱きつつ、人生前向きに“明日への活力”を求めている…。

本部
広報部長
中島 正夫



…◆訃報◆…



川崎支部
連盟本部 参与
森本武久(享年八二歳)
2014.9.8(逝去)

謹んでお悔やみを申し上げますと
ともに在りし日のお元気な
お姿を偲び
心からご冥福を
お祈りします。

NPO法人
日本抜刀道連盟
会長 大江正男
役員一同

◆お人柄紹介◆

◆ 所属支部 ◆ 沖縄支部 明垂館。
◆ 武道歴 ◆
※ …抜刀道 五段…
NPO法人 日本抜刀道連盟。
※ 杖道 錬士六段 全日本剣道連盟。
◆ 生涯学習と趣味 ◆



沖縄支部長
諸久原朝彰
(62歳)

※ 琉球古武術(空手)の
歴史探求と放浪酒場歩き。
◆ 武道修練の目標 ◆
※ 正義・勇武・礼節・謙讓
相手に対する誠の心とは
尊敬の念である謙讓の心。

◆ 座右の銘 ◆
※ 価値ある人生は長い (チャールズヤング 天文学者)
※ 明るい性格は財産より尊い(カーネギー 実業家)

▼ 風光明媚なエメラルドビーチをもつ沖縄。日本最南端の沖縄に支部が誕生し諸古ことは常に習い直してあるとの指導理念の基に、諸久原支部長を中心に杖道・居合・剣術の集大成である…、抜刀道の修練に励む南国の支部を紹介する…。(本部 広報部)

◆事務局便り◆



菅野 茂
本部 事務局長

十一月三日(文化の日) 十三時～十七時
新橋学習センターで、制定刀法 稽古会開催。
参加費：無料。申し込みは事務局長まで…。

● 090-93305
● 6943

◆ 今後は毎月一回同
場所にて稽古会を行
います。案内は連盟
HPとメールで発信
します。

▼ 平成二十七年一月十七日(土曜)東京武道館
で『稽古始め講習会開催』参加費：無料。
※ 終了後：新年会を(有料)で行う。
平成二十七年三月二十九日、五段以下審査会。
詳細は郵送にて連絡する。

Report

会報36号は、35号に続き“32頁から37頁”の計6枚構成です。
広報活動は、組織の“礎”であり、各支部事務局はコピーして支部会員への配布を願います。 ◆◆◆ 広報 部長 ◆◆◆